

リチャード・B・フィッシャー舞台芸術センター

Annandale-on-Hudson, New York / 2003 / Frank Owen Gehry

松原 直美



バード大学の緑豊かなキャンパス内に静かに佇む、フランク・O・ゲーリーの巨大な彫刻。金属パネルがうねる姿は圧倒的な存在感でありながら、この森の中に昔からあるかのように落ち着いている。固いのに柔らかい。冷たいのに温かい。建物を覆う何千枚もの金属製羽目板には、刻々と変化する空や木々の表情が映し出され、建物と自然環境は予想外の融合を果たしている。太陽の光を受けると、ブルーと金色の曲線のフォルムがきらめき、建物に生気がみなぎる。



この建物には3000席と900席の客席を擁する2つの劇場がある。ダンスや演劇、オペラ、音楽などの演奏用の多目的劇場となっており、学生による公演も上演される。

建物内部はどうなっているのかと思っていたが、外観ほどのインパクトはないものの、複雑に組み合わされた鉄骨が、古樹の幹のようにうねりながら空に登っていく。大きなガラス窓からはちゃんと光が入って、建築として空間を楽しむ。

